

長期継続のハンドボール歴

高校 17 期 (1965 年卒) 佐藤 健二

ハンドボールを始めたのは、高津中学 2 年生からです。1 学期が始まってすぐ、1 年生の同じクラスの M 君に、「新しいクラブを作るけど、お前はいれへんか」と、誘われました。「何のクラブや」、「ハンドボールと言うねん」、「何やそれ、全然知らんな。まあええわ、入るわ」というのが始まりです。2014 年 2 月現在でも、大阪シニアハンドボールリーグに、待兼シニアチームのダントツの最年長者として 10 年間続けて参加させていただいています。ただし、1 年目に倒れこみシュートのようなことをして大腿骨頸部骨折をして二ヵ月半入院しましたが。それ以後は怪我をしないように皆が気を使ってくれています。

このように書くとハンドボールを一貫してやっていたように見えますが、そうではありません。中学では、疲れのためか運動を始めて学業成績が落ち、母親にクラブ活動を一時止められました。しかし、いつの間にか復帰しました。高津高校へ入って 1 年間はハンドボール部に入らずに、何となくボーッと学生生活を送っていました。2 年生の春休みになり、突然再びハンドボールがしたくなり、学業成績が落ちたら止めるからと母親に約束し、再開することになりました。意外と成績も良くなり、3 年生の春までハンドボールを続けることができました。3 年生の春季大会では、宿敵寝屋川高校 (1 学年上には全日本のキャプテンの木野選手がいました) が高津との対戦の前に敗れ、対戦はありませんでした。大阪

府の近畿大会出場チームを決める日、午後の準決勝で富田林高校に敗れ、近畿大会出場をあと一步の所で逃しました。その日の午前にあった準々決勝では順当に勝ちましたが、寝屋川に当たらないことが分かり、クラブ員全員が安心し、昼食をたくさん食べてしまい、準決勝ではお腹が膨れて余り走れなくなり、残念な負け方をしてしまいました。

大阪大学医学部に入ったあと、余り勉強もせず 3 年余りはハンドボールばかりをしていました。大学の練習が終わった後や練習の無い日には高津高校へ行き、厳しく後輩をしぼっていました。その中には、現在の高津高校ハンドボール OB・OG 会の会長で全日本代表選手候補になられた川上氏もいます。大学 4 年が終わりと、一緒にハンドボールをしていた仲間と「待兼グルッペ」というクラブチームを作り、2 年ほど活動していました。大阪府民体育祭で、湧永製菓がまだ福島に居て参加している時に、シードチーム (大阪経済大学卒業の選手が主力の大山商会) を破って、待兼グルッペが 3 位になったこともあります。これ以降は本業が忙しくなり、ハンドボールに関して約 30 年のブランクがあります。しかし、体力だけは残しておこうと軽いランニングは続けました。

現在 67 歳です。以前から同窓生が「ハンドボール部の同窓会をしよう」と提案していました。2012 年 12 月に東京へ行く機会があり、関東での同窓会をしました。1 枚

目の写真がそれです。関東在住の4人が参加しました。2013年7月、高津高校ハンドボールOB・OG会の総会に合わせて、大阪で6人が集まりました(2枚目の写真)。関東から二人が駆け付けてくれました。同窓会では、名前に「君」や「さん」などを付けずに呼び捨てでお互いを呼び合い、和気あいあいと楽しく一時を過ごしました。

私の一生にとってハンドボールは本業と

同じほど重要な位置を占めています。医学部へ進めるようになったのもハンドボールのおかげの所があります。そのようなこともあります。やはりやってみて楽しいということが大きな要素です。年を重ねても適当にトレーニングを続けておれば何とかハンドボールはできます。後輩の若い皆様も、是非ハンドボールを長きにわたって楽しんでください。



写真1 左から、佐藤健二、若林清造、南原性七(キャプテン)、松永正浩、長井詳典



写真2 左から、黒川照幸、今中道雄、原田隆志、長井詳典、佐藤健二、若林清造